

事業所名

児童発達支援施設放課後等デイサービス ぱれっと

支援プログラム (参考様式)

作成日

令和6年

9月

3日

法人(事業所)理念		子どもたちの教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善・克服するため適切な指導及び必要な支援を行う。						
支援方針		日常生活に必要な動作や集団生活でのコミュニケーションの取り方などを習得することを目的に支援させていただきます。発達に心配のあるお子様が将来大人になったとき、自然に社会に溶け込めるように成長・発達を見つめ、幼児期・学齢期にあった支援を行っております。						
営業時間		9時	00分	17時	30分まで	送迎実施の有無	あり	なし
支 援 内 容								
本人支援	健康・生活	健康状態の維持や改善、基本的な生活スキルの習得、生活リズムの形成の支援方法を考えます。睡眠、食事、排泄を身につける方法。遊びの中や日常生活の中での学習機会を利用した支援、環境配慮を工夫します。毎日の検温・手洗いを実施し、ひとりひとりの健康状態を把握し、健康な心と体を育て、健康で安全な生活ができるように支援を行います。						
	運動・感覚	運動機能、バランス感覚、力の強弱、距離感、様々な体の感覚・触覚に触れ、感覚の成長を支援します。様々な活動内容を用いて微細運動・粗大運動の両方を支援できる環境を整えていきます。公園遊び・感覚遊びを行い、筋力の維持・強化を図ります。また、日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善・習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図ります。						
	認知・行動	特性に合わせて、どのような方法、環境であれば円滑に学習に取り組めるのかを模索し、支援します。「苦手な事でも少しでも挑戦してみる」、「みんなと一緒にやってみる」等課題に向く姿勢、力をつくように声かけをしていきます。頑張ると「楽しい」、「もう一回やりたい」と感じるように内容を工夫していきます。当日の日付・曜日・スケジュールを視覚でわかるように掲示し、概念の習得を図ります。また感覚や認知の活用(視覚、聴覚、触覚)をして、必要な情報を収集し、認知機能の発達を促していきます。						
	言語 コミュニケーション	「自分の要求」、「何かあった時の報告」、「相手の話を聞く」、「真似してみる」、「周りがしていることを見てみる」など、自分も周囲の人も大切にすることを学んでいきます。言葉だけでなく、ジェスチャーや身振り手振りなどお子さまに合った方法を考え支援します。まずは簡単なあいさつや会話など、円滑なコミュニケーションを行えるように支援します。また、具体的な事柄や経験と言葉の意味を結び付け、体系的な言語の習得や自発的な発声を促進します。						
	人間関係 社会性	SST(ソーシャルスキル)と言われる支援を行います。「順番を交代する」、「自分の今日の役割を自覚する」、「約束事やルールを守る」、「指示に沿った行動をする」など、社会に適応するために必要なスキルを支援します。また、「相手の感情に気付く」、「自分の感情に名前を付ける」、「その対処法を考えてみる」など気持ちのコントロールを練習します。ストレスや不安が強い状態の時にはお子さまのペースに合わせて関わり、そのストレスを発散する方法を考えていきます。まずは、人遊びや共同遊びの活動を通し、自己理解・他者理解を養います。						
家族支援		事業所での様子や変化をお伝えし、ご家庭での様子と照らし合わせながら具体的な関わり方について一緒に考えていきます。			移行支援		必要に応じて幼稚園や保育園へ訪問したり、幼稚園や保育園の連絡と当事業所の連絡内容を相互に確認し、日々の様子を共有していきます。	
地域支援・地域連携		お子さまに関わりのある関係機関(幼稚園や保育園、併用事業所など)と必要に応じて情報の共有を行っていきます。			職員の質の向上		担当制を活かし関係機関と連携を強めていきます。様々な研修に積極的に参加をしていきます。また、職員間での情報の共有をし、相談をします。関係機関とより密に情報の交換・共有をする事でより良い支援を提供するよう努めていきます。	
主な行事等		初詣、豆まき、お別れ会(年長さんたち)、進級おめでとう会、春の大運動会、BBQ、水遊び、縁日、芋掘り、ハロウィン、遠足、クリスマス会等						